

9. 道北口腔保健センターにおける全身麻酔症例について : 10年間の臨床統計的観察(第五回北海道臨床歯科麻酔研究会)

| | |
|--------|---|
| 著者名(日) | 納谷 康男, 高田 知明, 新崎 裕一, 高橋 堯, 新家 昇 |
| 雑誌名 | 東日本歯学雑誌 |
| 巻 | 10 |
| 号 | 2 |
| ページ | 128 |
| 発行年 | 1991-12-30 |
| URL | http://id.nii.ac.jp/1145/00007679/ |

9. 道北口腔保健センターにおける全身麻酔症例について

——10年間の臨床統計的観察——

納谷康男, 高田知明, 新崎裕一¹

高橋 堯¹, 新家 昇

(東日本学園大学歯学部歯科麻酔学講座)

(旭川歯科医師会¹)

道北口腔保健センターでは、旭川歯科医師会会員が中心となり、心身障害者の歯科治療を行ってきた。全身麻酔下での歯科治療は、昭和55年9月から開始され、平成2年4月までの9年6ヶ月間の症例数は655例に及んだ。当センターにて治療を行った患者は、障害の程度もさまざまであり、施設入居者や在宅者の居住地も旭川市とその周辺地域を中心にほぼ北海道全域に及んでいる。このため、当センターで処置を行うに当たっては、帰宅までの距離、時間、季節的な状況などを考慮に入れるとともに

に術前検査などで比較的全身状態の良好な症例を対象とした。また、全身状態の悪い症例に関しては、旭川医科大学附属病院口腔外科及び東日本学園大学歯学部附属病院で治療を行った。

今回我々は、過去約10年間に当センターにおいて全身麻酔下で歯科治療を行った症例について、その出身地、年齢、障害の種類に加え、麻酔法、麻酔時間、使用薬剤、術中術後合併症および帰宅時間などを調査し、統計的観察を行ったので報告する。

10. サクシニルコリンクロライドによる 血中逸脱酸素遊離に及ぼすリドカインの影響について

遠藤裕一, 大友文夫, 高田知明

高橋 堯, 工藤 勝, 岩本 暁

今崎達也, 納谷康男, 大和紀正

國分正廣, 新家 昇

(東日本学園大学歯学部歯科麻酔学講座)

サクシニルコリンクロライド (SCC) の投与によって骨格筋の損傷をきたすことはよく知られており、特にハロセンやエンフルレンなどの揮発性麻酔薬との組合せにより著明なミオグロビン尿症が誘発される危険性も高い。一方、これを予防する方法の一つとしてリドカインによる前処置が試みられているが、その効果に対する一定の見解はなく、投与する時期についても検討されたものはない。そこで今回我々は、臨床使用量のリドカインの静注がSCCによる筋損傷を予防し得るかを、全身麻酔下での歯科治療が予定されていたASAのRisk I～IIIの患

者を対象として検討した。方法は、全症例、笑気・酸素・ハロセン・(GOF) による緩徐導入後、硫酸アトロピン 0.01mg/kgを静注し、I群ではSCC 1 mg/kgのみを投与、II群ではSCC投与1分前に、III群ではSCC投与3分前に各々リドカイン1.5mg/kgを静注した。気管内挿管後はGOFにて調節呼吸下に維持した。各症例において硫酸アトロピン投与前、SCC投与5分後、30分後、60分後の各時点で下肢より静脈血を採取し、血中ミオグロビン、CK、K⁺、GOT、LDHについて測定し、統計処理を行った。これらの結果、若干の知見を得たので報告する。